

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2014年2月15日

所属：教育文化学部 国際言語文化課程 欧米文化選修 4年

氏名：郡司 理沙

派遣先大学名（国名）：キャリア大学（イタリア）

在籍身分：交換留学生

派遣期間：2013年3月～2013年12月

渡航年月日：2013年3月5日

帰国年月日：2013年12月23日

■派遣先大学における授業等の履修状況

授業名	履修期間	講義時間
第2言語としてのイタリア語（言語学）	3月～6月	週2時間
イギリス文学	3月～6月	週4時間
イタリア語 A1（*）	5月～6月	週6時間
イタリア語 A2（*）	9月16日～27日集中講義	全20時間
イタリア語 B1（*）	10月～12月	週6時間

他に、学外の無料イタリア語教室と週1～2時間程度のイタリア語個人レッスンにも通っていました。（*）

■研究・学習概要及び今後の勉学計画

現地では、自分が配属された学部の授業、そして言語学センター（Centro Linguistico di Ateneo）という機関が開講するイタリア語の授業を受講することができます。

学部の授業は無料で受講することができますが、イタリア語の授業に関してはいくらかの授業料を支払わなければなりません。私も、30時間分の授業に30ユーロ、20時間分の授業に60ユーロ、60時間分の授業に80ユーロを支払いました（1ユーロ約140円：2月15日現在）。授業のレベルは初級のA1から、A2、B1、B2、C1、最高レベルのC2まであり、生徒は学期の初めにコンピュータによる簡単なイタリア語のテストを受け、その結果をもとにクラス分けされます（学期によって開講されないレベルもあります）。キャリア大学には「イタリア語を学ぶための留学生用のコース」などはありませんので、

イタリア語 A1 のクラスメイトと



イタリア語を学びたいと思った生徒は言語学センターが開講する1つの授業だけを1つの学期に受講することになります。他に会話やライティングなどに特化した授業はありませんので、様々な授業を通してイタリア語を学びたいと思う人は物足りなさを覚えるかもしれません。

また私は外国語学部に所属し、学部の授業としてイタリア語の言語学（留学生用）、イギリス文学といった授業の他に、英語、音楽の歴史などの授業も聴講していました。どの授業でも、アカデミックな内容を現地の学生に交じってイタリア語または英語で学ぶので、授業内容を理解しついていくのが本当に大変でした。しかし学部の授業に出席したことで、イタリア語を聴く力はかなり鍛えられたと感じています。また、ほとんどの授業の試験が口頭試問形式で行われますので、授業内容の理解だけでなくそれをアウトプットできるだけの語学力も求められます。確かにかなり苦勞はしますが、教授と相談し、授業の後に個別でフィードバックを行ってもらったり、試験をイタリア語ではなく英語で受けさせてもらったりもできるので、心配はあまりないと思います。

イタリア語を学習したことで他のロマンス語派の言語に関心がわきましたので、今後はスペイン語やフランス語などにも挑戦し、言語を通して視野をさらに拡大できればと思います。

■生活面について

カリアリ市内には、カリアリ大学の学生寮がいくつかありますが、私はその中でも市街地（大学があります）から最も遠く離れた寮に住んでいました。市街地からはバスで約20分ほどです。寮には留学生用に2、3部屋が用意されていますが、その他はすべて現地の学生用の部屋となっています。キッチンとバスルームは共同で、早朝と夜12時以降はお湯が出ず、時々断水が発生していました。Wi-Fiも飛んでいますが、接続できなくなることが高頻度でありました。私は2人部屋に住んでいて、留学期間中はトルコ人、スペイン人、カンボジア人の女の子達が入れ替わり立ちかわりルームメイトになりました。どの子とも大きなトラブルはありませんでしたし、カンボジア人の女の子とはかなり仲良くさせてもらいましたが、やはり他人と、しかも国籍や文化の違う人と一緒に住むということでストレスを感じてしまうというのは、ある程度は仕方のないことかもしれません。

しかし、そのような体験は留学中でなければできない貴重なものでもありますので、少しでも楽しもうというポジティブな姿勢を持つことが大切です。カリアリ大学の学食は寮と同じように、大学構内ではなく街中に設置されています。

サルデーニャの海



キャリアの夜景



2. 6ユーロ（約360円）で所謂フルコースを食べることができるため、私もよく通っていました。

また、キャリアには日本の食材を販売しているお店が1つだけあり、そこもよく利用していました。ただし調味料が中心で品数は多くはなく、値段も高いというのが難点です。

大学のあるサルデーニャ島は日本の沖縄のような存在で、夏になると観光客やセレブ達がバカンスを楽しむため、ヨーロッパ中から集まってきます。気候は1年を通して温暖で住みやすく、1年のうち約300日間は晴れ。自然も多く残され、島を囲む海は本当にきれいです。都会らしさはありませんが、ゆっくりとした時間を過ごすことのできる環境があります。

大学のあるサルデーニャ島は日本の沖

■その他留学全般にわたる感想

日本では当たり前のようにできる事務手続きでも、イタリアでは何倍もの労力をかけなければ進めることはできません。それは、イタリア人たちが良い意味でも悪い意味でも「自分の人生を楽しみたい」と思っているからだとは私は考えています。自分が面倒くさいと感じたことはやらない、仕事であってもコーヒーを飲みたいと思ったらカフェに行く。自分の思ったようにしたい。そんなことが当たり前のように行われているイタリアでは、大学のような公的機関とのやりとりにおいてでさえも、物事がスムーズに進むことはあまりありません。実際、私が留学を決定してから出発するまでの間にも、キャリア大学から連絡がこない、VISA申請に必要な書類が1か月経っても届かない、届いても書類不備であるというようなことが起きました。留学中も理不尽に寮の契約を切られそうになり、イタリア語の授業もいつまでも始まりませんでしたが、何度も何度もそのようなことが続くと、人は慣れてしまうようです。初めは問題がある度に怒っていましたが、次第に「ああまたか」と軽い気持ちでスルーできるようになってしまいました。

しかし、本当に大切な手続きやお願い事に関してはそうであってははいけません。自分が動かなければあちらは何もしてくれませんし何も始まりません。私も寮の契約を切られそうになった時には毎日オフィスに通いつめましたし、半ば強引にでも自分の意見を知ってもらい動いてもらうという図々しさも、現地では必要でした。

小さなイタリア語の参考書2冊と共に出発したこの留学ですが、現地では想像以上の言葉の



タンDEM（言語交換）パーティーにて

壁に打ちのめされ、精神的にもつらく苦しい日々を送りました。

それでもなんとか踏ん張り続けられたのは、日本の友人や同じく留学中の友人、家族、秋田大学の先生方、キャリアリ大学で出会った友人の支えがあったからだと感じています。支えてくださった方々、応援してくださった方々1人1人に、心から感謝したいです。



本場のピザは大きい・安い・美味しい